

作成年月日：2020年9月23日（Ver.1.1）

久留米大学では、受診時に患者さんから取得された試料と診療情報等を使用して下記の研究を行っています。本研究で使用される試料・診療情報等は他機関への提供は行いません。

なお、下記研究は久留米大学の倫理委員会にて「社会的に重要性が高い研究」等の特段の理由が認められ、研究機関長の承認を得て実施しています。当該試料・診療情報等の使用については、研究計画書に従って匿名化处理が行われており、研究対象者の氏名や住所等が特定できないよう安全管理措置を講じた取り扱いを厳守しています。本研究に関する詳しい情報をご希望でしたら問い合わせ担当者まで直接ご連絡下さい。また、本研究の成果は学会や論文等で公表される可能性があります。個人が特定される情報は一切公開しません。本研究の研究対象者に該当すると思われる方又はその代理人の方の中で試料・診療情報等が使用されることについてご了承頂けない場合は担当者にご連絡ください。なお、その申出は研究成果の公表前までの受付となりますのでご了承願います。

【研究課題名】肺癌における CDCP1 の発現意義に関する研究

【試料・診療情報の対象者（研究対象者）】

- 1) 受診期間：2013年1月から2020年8月の間に受診
- 2) 受診科：呼吸器病センター
- 3) 対象疾患名：肺癌と診断され、切除・生検術あるいは胸水穿刺および気管支擦過細胞診を施行された20歳以上の方

【試料・診療情報等の項目】

試料：【組織切除・生検あるいは胸水細胞診標本】

診療情報等：【病歴、既往歴、治療歴、診断名、年齢、性別、検査結果等】

【研究目的】

耐性変異 EGFR T790M を有する肺癌細胞の耐性克服を目的にオシメルチニブが承認されました。しかしオシメルチニブについても耐性癌が報告され始め、オシメルチニブ耐性肺癌に対する克服治療戦略を進展させることは緊急の課題です。我々は、オシメルチニブを長期暴露することにより樹立した耐性肺癌細胞を使用した実験により、オシメルチニブ耐性細胞で CDCP1, AXL 及び SRC の発現が亢進しており、これらのタンパク質の発現抑制により細胞生存を阻害することができることを確認しています。CDCP1 や AXL は EGFR-TKI 感受性に重要な役割をもつと考えられますが、なぜ治療効果と関連しているかについては検討が不十分です。この耐性メカニズムについて新規に CDCP1 や AXL に着目し、EGFR-TKI 耐性への関与について明らかにします。

【研究（利用）期間】久留米大学倫理委員会承認後から2023年12月まで

【利益相反に関する事項】

本研究は特定企業からの資金援助はないため利益相反は発生しません

【問い合わせ先】

研究責任者（使用する試料・情報の管理責任者）：久留米大学病理診断科・病理部 部長 秋葉 純

問い合わせ担当者：久留米大学病理診断科・病理部 副技師長 河原 明彦

電話: 0942-31-7651

E-mail: akihiko4@med.kurume-u.ac.jp